

研究

編集発行
大曲仙北教育研究会

キーワード

会長 藤本 竜伸

時代が要請するのでしょうか。教育改革が加速化して、教育に関する多くのキーワードが目まぐるしく飛び交っています。その中で、私が特に注目しているキーワードが、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」と「高大接続改革」です。

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」というのは、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育の全体の抜本的充実を図るものです。具体的には、小学校中学年で週1～2コマの活動型授業を実施し、学級担任を中心にコミュニケーション能力の素地を養うことを目指します。小学校高学年においては、学級担任に加えて専科教員を積極的に活用し、教科型授業を週3コマ程度行います。中学校では、授業を英語で行うことを基本としています。

確かに、グローバル化に対応するためには、このような改革が必要なのかもしれません。が、小学校への英語専科教員の配置を考えれば、英語教員が不足することが心配されます。

そういえば、本県でも「英語力日本一」を掲げて英語教育に力を注いでおります。そして、そのような取組の中、平成28年度には、本郡市を会場に「外国語・外国語活動」の秋田県研究大会が開催されることとなっており、会員の皆さんの研究実践が期待されているところです。

また、宣伝になりますが、大曲小学校が、「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」の指定校として、今年度11月に自主公開することとしており、研究の成果を多くの皆様にお見せしたいと計画を進めております。

もう一つのキーワード「高大接続改革」は、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて、「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」や主体性をもって多様な人々と協働する態度などの真の学力の育成・評価に取り組むものです。これには、大学入試制度改革も含まれており、現在の小・中学生の大学入試時に関係します。ですから、小・中学校においては、「思考力・判断力・表現力」の育成のための授業改善が一層求められます。また、進学塾等の指導の在り方も一変するかもしれません。教育改革は、多くを巻き込みながら進むことになるのです。

難しい話になってしまいました。。。。。

この時期、登校した小学生は、「ねえ、見てみて。アサガオが咲いたよ。」「ミニトマトが赤くなったよ。」「〇〇君のキュウリがカラスに食べられてかわいそう。」というように声をかけてきます。どの顔も目を輝かせ、生き生きとしています。私の毎朝の楽しみです。

不易と流行ということがよくいわれますが、いつの時代にあっても、この子達の笑顔こそ私たちの求めるものなのだと、胸に刻む毎日です。

大会 せまる！

= 平成27年度 大曲仙北教育研究会「大会」 =

- 期 日 平成 27 年 7 月 30 日 (木)
- 会 場 大仙市仙北ふれあい文化センター
- 日 程 8 : 4 0 ~ 9 : 1 0 受 付
- 9 : 1 5 ~ 1 0 : 0 0 全 体 会
(実践記録の表彰含む)
- 1 0 : 1 0 ~ 1 0 : 2 0 音 楽 教 育 研 究 会 に よ る 発 表
- 1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0 講 演 会



講師： 大間 ジロー 氏 (ミュージシャン 天地人 元オフコースドラマー)

演題：「音楽が持つ無限の可能性」

元天地人大沢しのぶさん(大館曲げわっぱ太鼓)とのコラボ演奏もあります

夏季休業中ではありますが、各地教委のご理解とご協力を得て開催する大会です。会員全員の研修の場であるという認識を持ち、一人一人が自覚と責任のもとに参加下さるようお願いいたします。なお当日欠席される方については、学校ごとに欠席届をまとめて仙教研事務局までお知らせ下さい。

駐車場に関しては文化センター近辺に 600 台程度を用意し、係員も配置したいと思っておりますが、収容台数には限りがあります。1 台 2 人以上の乗り合いを心がけ、混雑解消と事故防止にご協力下さい。また、文化センターの開場は 8:40 の予定ですので、あまりに早い会場入りはご遠慮ください。

平成 28 年度の仙教研大会の講演会講師は・・・！

平成 28 年度大会時の講演会講師を、メディア等でも多数取り上げられている集団行動の指導者でも有名な 日本体育大学名誉教授 清原 伸彦 氏 で出演交渉を進めています。どうぞ、楽しみに！

春季研究会を振り返って

今年度も前半に大仙市教職員研究集会が行われましたが、各団体の事務局や会員の皆様のおかげで大きな混乱もなく研究会が行われました。今年度より、前半、後半の研究団体の研究団体の人数の差を少なくするために、特別支援と進路指導の場所を交換させていただきましたが、スムーズな移動ができたようです。ご協力に感謝します。

以下のような反省が出されています。ご覧ください。

- 総会部分については資料の前渡しや紙上報告を取り入れて、簡略化できるものは時間をかけないようにした。研修時間の確保に努めた。
- 今年度の秋の研究会に向けた充実した話し合いができた。
- ▼時間は足りないようだが、仕方がないと思う。
- ▼保健主事部会の開催時間が、教科・教科外研究会の後の 17:00～ということで、今年度は著しく出席者が少なかった。次年度から、開催時間等の調整が必要ではないか。